

平成14年度第1回宇都宮市生涯学習推進懇談会議事録

開催日時 平成14年12月24日(火)午前10時~正午

開催場所 14A会議室

出席委員 28名(別紙のとおり)

会議の公開・非公開の別 公開

【会長選出】

廣野係長	開 会
伊藤次長	〔あいさつ〕
廣野係長	〔会長・副会長選出について仮議長選任の提案〕 体育協会の大房委員に仮議長をお願いすることでいかがでしょうか。
一 同	異議なし
大房仮議長	まず会長の選出についていかがいたしましょうか。
金子委員	先の会長には、学識経験者の中から文星芸術大学の齋藤先生をお願いしており、今回も教育の専門家であり経験豊富な作新短大の伊達先生が適任と思います。
大房仮議長	作新学院短大の伊達先生が適任ではないかというご意見がありました。すが、いかがでしょうか。
一 同	異議なし
大房仮議長	それでは、伊達先生に会長をお願いすることにいたします。どうぞよろしくお願いいたします。 次に副会長の選出についていかがいたしましょうか。
松本委員	事務局の方で案がありましたらと思います。
大房仮議長	事務局の方で案がありましたらというご意見がありました。すが、事務局で案はありますか。
廣野係長	今回は会長が男性であったことから、副会長には女性をとということをお願いした経緯がありました。

今回会長が女性でありますので、副会長にはご経験豊かなPTA連合会会長の三村氏にお願いできればと思っております。  
また、慣例で副会長2名のうち1名は、市議会議員の委員の中から選出していただいております。今回も市議会議員に委員をお願いできないかと思っております。

大房仮議長 只今事務局からありましたような方法でよろしいですか。

一同 異議なし

大房仮議長 それでは、三村委員さんよろしくお願いたします。  
また、もう一人は市議会議員の委員の中から選出とのことですが、いかがいたしましょうか。

大貫委員 篠崎委員が適任であると思います。

大房仮議長 篠崎委員というご意見がありました、いかがでしょうか。

一同 異議なし

大房仮議長 それでは、会長、副会長が決まりましたので、仮議長の任を解かせていただき、引続き会議は会長にお願いいたします。  
ありがとうございました。

## 【議 事】

廣野係長 ありがとうございました。  
それでは、新たに選出されました会長、副会長を代表して会長にひとことごあいさつをお願いします。

伊達会長 〔あいさつ〕

廣野係長 それではさっそく議事に入りたいと存じます。議事の進行につきましては伊達会長にお願いいたします。

伊達会長 最初は、「第2次宇都宮市生涯学習推進計画について」事務局から説明をお願いしたいと思います。

川田総括主査 〔「第2次宇都宮市生涯学習推進計画について」資料に基づき説明〕

伊達会長 「第2次宇都宮市生涯学習推進計画について」説明がありました

	<p>が、これについてご質問等ございましたらお願いいたします。 よろしいでしょうか。 それでは、引続き「第2次宇都宮市生涯学習推進計画事業計画重点事業の進捗状況について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
川田総括主査	〔「第2次宇都宮市生涯学習推進計画事業計画重点事業の進捗状況について」資料に基づき説明〕
伊達会長	10月末在での進捗状況とのことでございますが、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。
松本委員	いろいろなボランティア関係の講習会にはたくさんの方が参加されると聞きますが、それでは参加された方々が地域で実際に活動しているかという今ひとつという感じがします。地域で実際に活動している側が受け入れていく体制も必要で、その辺のやり方を検討して協働していく必要があるように思います。
伊達会長	コーディネートする人の養成が必要ということでしょうか。
藤井委員	資料4の評価の中で、特にCの評価がなされているものについて進捗していない課題はなにかこれからどんなふうに進めようとしているのかポイントを絞って説明していただきたい。
川田総括主査	〔資料4 13～14ページに基づいて説明〕
丹生課長	<p>現在市民生活部で、地域のまちづくり組織を立ち上げようとしており、来年1月から11地区に説明に伺う予定です。これは、宇都宮市が目指す市民と協働のまちづくりを進める組織ですが、生涯学習推進組織はその一部分であり、まずは地域まちづくり組織が立ち上がってから、各地域に生涯学習推進組織をつくっていただくよう進めていきたいと考えているところです。</p> <p>また、市街地の25コミュニティセンター地域にも、まちづくり組織の中に生涯学習を推進する組織を来年度つくっていただきたいということで取り組みたいと考えております。</p>
藤井委員	課題についての対応を伺いましたが、計画の期間は平成17年度までです。これらの対応が、14年度後半の対応なのか当面手の届く15年度の対応なのか、その両方を含むものなのか伺いたい。
川田総括主査	両方含むものをご理解ください。
伊達会長	只今、評価Cの3つの事業について説明をいただきましたが、共通

	<p>する課題があるように思います。組織を作るということに関して時間がかかったり，うまく進まないということのようですが，この辺に関していかがでしょうか。</p>
塚原委員	<p>人材バンクについて，学校の方でも一生懸命推進しているのですが，生涯学習課の事業と学校のそれと整合がとれているのかどうか伺いたいと思います。</p>
丹生課長	<p>学校の方は，学校行事や授業でのボランティアということで考えており，生涯学習課の方は学校外，地域を対象として考えておりますが，重複する部分が多分にあるかと思えます。この辺の整理もしながら進めてまいりたいと考えております。</p>
塚原委員	<p>どっちに登録したのか混乱している地区もあるように聞いております。その辺の識別を是非しっかりしていただきたいと思えます。</p>
添田委員	<p>人材バンクについて登録者の現在数，登録の方法，団体としての登録なのか，個人の生き方も含めた人材の登録なのか伺いたい。また，生涯学習を推進する組織について，事業の企画に参画する人たちが所謂「長」といわれる人たちになるのか，まちづくり組織の下部組織とのことだがよくわからない。</p>
川田 <small>総括主査</small>	<p>現在人材バンクを持っている地区数は5，登録者数はこの5地区で229人でございます。これに，インターネットでご覧いただけるマナビスという生涯学習情報提供システムの講師情報851人を加えますと，1,080人の方々が何らかの形で登録されていることとなります。</p> <p>登録の方法につきましては各地域それぞれで，清原の人材バンクがかなり早くに整備されましたものですから，各地域がそれを参考にされたようです。</p> <p>回覧版等で知識・技能をお持ちの方で協力いただける方に登録を促し，登録者を募って作成するのが一般的のようです。</p>
廣野係長	<p>団体と個人との別につきましては，特に団体で活動している方ということではなく，各人の得意分野で登録をしていただいております。</p> <p>生涯学習推進組織につきましては，もともと公民館で活動されていた方々には，公民館の学習を進めるという考え方がありました。そこに昨年，まちづくりを進めるという観点で，地域説明を行いました。十分ご理解が得られていないのではないかと思います。</p> <p>したがって，まちづくり組織と生涯学習推進組織とを一緒に説</p>

明すると地域が混乱してしまうのではないかと考えます。

また、下部組織ということについては、まちづくり組織は、地域のおおもとの組織であり、生涯学習ばかりではなく、健康や防災その他いろいろな課題に対する機能を含むものでありますので、生涯学習推進組織はその下部組織という位置づけになるものです。

添田委員

只今のご説明で大綱判りました。それぞれ地域に住む人たちが個性を伸ばしていけるような地域のまちづくりが必要だろうと思います。

また、生涯学習計画には男女共同参画の問題も入れていただいておりますが、新しい法律もでき、これは21世紀の最重要課題でもあります。この問題ひとつにつきましても全庁的な課題であり、そういうものを生かしていけるようなプランづくりを進めて行きたいと思えます。

伊達会長

この問題に関連して他に質問はございませんか。

鈴木委員

地域の人材ということについて、現在生涯学習ボランティア講座を受講させていただいている立場から感想を述べたいと思えます。

今年度これまで講座を受講してきましたが、これからわれわれはどのような方向に向かっていったらよいのか、市の方では各地区のコミセン等での役割を担ってほしいということですが、果たしてそれだけでよいのか、ボランティアがしっかりした組織をつくって行政と両輪となって運営を進めていくことが望ましいのではないかとと思えます。

また、実際にロスでコミュニティカレッジを体験いたしました。大学が学部の枠を取り払い科目の選択ができ、何歳になっても学びたい人たちを受け入れる、また地元の大学を魅力ある大学にするためにもアメリカのコミュニティカレッジ的な生涯学習体系が必要なのではないかと思えます。

伊達課長

只今、評価Cがどうしてかという議論の中で、今の鈴木委員さんのご意見は今後展望していくときのひとつの方向性ということと思えます。

渡邊委員

西生涯学習センターの人材バンクは、なにをもって登録したり呼びかけたりしたのか伺いたい。

川田総括主査

西センター地区の自治会のご協力をいただきながら、回覧版でお知らせし、無償で生涯学習センター等の講座にご協力いただける方の登録をいただいたものと聞いております。人材バンク自体は今年の2月頃にできております。

- 三村副会長 先ほど塚原委員さんのご質問のありました学校ボランティアの件ですが、実際に学校での人材ボランティアの募集というのは相当前からおこなってきておりました。ただこれはあくまで、総合学習に対応していくための学校人材バンクであったわけです。これがいつのまにかボランティアティーチャーという名前に変わりました、その辺から住み分けができなくなってきたのかなという気がします。学校はもちろんです、一般の方々、市民のための指導者もつくって行こうというのが生涯学習の人材バンクだと思います。ただ、生涯学習の人材バンクが、地域に向けた人材バンクであっても、学校5日制が始まりまして、地域が子どもたちにどういうことができるかという点において、また人材バンクが発生してきたわけです。したがって、先ほど学校の人材バンクと生涯学習のそれとは別という話がありましたが、学校5日制においては一緒の人がやっていかないと基本的にだめだと思います。その辺のところをもうすこし推し進めていってほしいと思います。
- 伊達会長 計画の上では事業ごとに担当課名があります。行政処理上は担当課が必要ですが、子どもを含めた市民の生活という観点からは、これは学校、これは地域というふうには分けられないところに一番難しい問題があるし、それをどうクリアできるかが大事な部分なのだろうと思います。
- 柳田委員 3つのリーディングプランと「学ぶ」「生かす」「つなぐ」を縦軸と横軸にとった資料3裏面の重点事業一覧に、評価のA、B、Cを記入していくと「はつらつ宮っ子育てプラン」にはBとCしかありません。今話題になっている「人材バンク」がCで、あとはBです。この表で問題点がよく出ていると感心しました。いちばんいい結果になっているのは「まちづくり学習実践プラン」でほとんどAとBです。「チャレンジ学習推進プラン」は、これもほとんどAとBですが、「高齢者地域活動実践塾」がCになっております。こうしていくと問題点が非常に判りやすくなります。「はつらつ宮っ子育てプラン」は全部見直すべきではないかということが表から判ります。「チャレンジ学習推進プラン」では、「生かす」の高齢者地域活動実践塾を、「まちづくり学習実践プラン」では「つなぐ」の地域の生涯学習推進組織を解決すれば、実績が得られるのではないかと思います。事業計画は、縦割りとか横割りとかで作成したものではないと思いますので、総枠から攻めていく、見直していくことができるのではないかと思います。
- 伊達会長 明解に区分けをしてご意見をいただきました。多分「学ぶ」というのは割合にしやすいのだけれど、「生かす」と

「つなぐ」は現実に課題の多いところであろうと思います。  
他にいかがでしょうか。

諏訪委員

地域生涯学習推進組織は平成 14 年度に地域生涯学習センターの設置とセットで企画されたものです。

公民館がなくなったあと、生涯学習センターはできたけれどもそれをバックアップする組織ができないということは、片肺飛行の状態に陥っているといえます。さらにこの組織の立ち上げの目標年度が平成 17 年度ということでは、生涯学習推進に大変な停滞を来たしてしまいます。

地域まちづくり組織と混同してしまうから、立ち上がらないというのなら、何故現在ある 5 つの組織は立ち上がったのか。生涯学習センターと推進組織はセットなのだから、まちづくりとは関係なくどんどん立ち上げていけばいいのではないかと。そして出来上がったものをまちづくり組織に包含していけばいいのではないかと考えます。ちなみに現在ある組織は、どうしてできたのか伺いたい。

廣野係長

公民館運営審議会を統合一本化したのが平成 13 年 6 月でした。それに伴って各地域には、地域の生涯学習を進めるための、企画・運営を公民館と一緒に運営に参画できるような組織をつくっていただけないかとお願いしました。13 年度にご理解をいただけて組織が立ち上がったのが 5 地区であります。

現在、地区行政ということで、新しい目標を掲げて市民との協働を推進していく中で、生涯学習とまちづくりとが非常に似かよっており、地域が混乱しているという状況がありました。また、地域によっても差があり、新たな組織が立ち上がっていないところです。ただし、生涯学習が進んでいないということではなくて、生涯学習センターを中心にこれまでの地域の団体の方々のご協力によって進められているところです。

諏訪委員

生涯学習推進組織がなくても地域の生涯学習が推進されていると云っては、推進組織をつくる意味がなくなってしまいます。まちづくり組織とは関係なく、本来の目的どおりに生涯学習推進組織を作ってもらうことに全力を傾ければよいのです。まちづくり組織は頭から離して、生涯学習推進組織をつくることを進めればよいのです。そうしないと遅れてしまいます。

丹生課長

昨年 5 月に地域を回り、結果として 5 地区で組織が立ち上がりましたが、その後のフォローも十分でない部分もありました。また、まちづくり組織と一体的にできないかというご相談もあって、私どもの歩みが緩んだ部分もございます。

お話を伺いまして、地域の皆さんが自由に学習活動をおこなえるよ

うになればいちばんよいのではと感じております。今後私どもも積極的に地域に出向くようにいたしまして地域の組織を作っていたべくよう努力して参ります。

大貫委員 混乱しているのは、事務局の方ではないですか。事務局の勉強不足と思います。市民協働のまちづくりについては、相当に進んでいて予算をつけて実際にもう進んでいるのです。

生涯学習の懇談会が、協働のまちづくりと一体となって進むということを今一度はっきりさせないと懇談会の方向が判らなくなってしまうと思います。

伊藤次長 申し訳ありません。方向性は決まっているのですから、しっかり協働ということでさらに進めさせていただきたいと思います。

橋立委員 まちづくりと生涯学習とが判らなくなっているということですが、公民館の運営審議会が生涯学習センターになって解散したわけですが、それがまちづくりとどう関係するかということです。基本的には新しいまちづくり組織の一部として生涯学習推進組織ができるのは正しいと思うのですが、

地域社会の中で現場に行くと、今まで公民館の運営審議会というのは地域の重役たちの集まりで、かなり固い組織として動いてきているわけです。それが、まちづくりという思い切り若い組織になっていかないと動かないわけで、運営審議会がいきなりまちづくり組織になるかというとなかなかそうはならない。地域で意識を変える必要があります。

諏訪委員がおっしゃるように、生涯学習については少し若い力を入れることによって立ちあげる。まちづくり組織については、むしろもっと余計に時間がかかるかなと思います。

第2次生涯学習計画に「伝統的な地域連帯を補強する活性化した地域社会づくりを目指し」(P5)という言葉がありますが、この「伝統的な地域連帯」というのは、まちづくりにとっては大変な障害になっている部分もあります。

既存の団体に着目したような活動から、まったく新しいテーマ別に新たに生まれてくるNPOの活動などをどのようにして入れていくかが大切であり、今非常に大きく変わらなくてはならないときであり、この辺について、是非とも新しい計画にさせていただきたいと思います。

伊達会長 議題の2については、時間をかけて皆さまからいろいろご意見をお出しいただきました。事務局の方で今一度ご検討いただくとよいと思います。

それでは議題の3に移ってよろしいでしょうか。



事務局から、「事業計画への新規計上事業について」を説明してください。

川田総括主査

〔「事業計画への新規計上事業について」資料に基づき説明〕

伊達会長

ご質問、ご意見はございませんか。  
3月に第2回の懇談会が予定されており、そこでまたご意見をお出しただけの機会がございますが、それでよろしいでしょうか。  
それでは、4のその他に移ります。  
事務局からお願いします。

川田総括主査

〔「その他 生涯学習フェスティバルについて」資料に基づき説明〕

伊達会長

16年度に予定されている生涯学習フェスティバルについては、3月の懇談会に意見をとのこととございますので、宿題のようなものでございますが、是非多くの意見を願いたいします。  
委員の皆さまから何かございますでしょうか。

佐々木委員

先ほどのまちづくりと生涯学習の関係について、学習活動には個人が個人のために学ぶもの  
個人が社会や地域、まちのために学ぶもの  
そして逆に学んだことを生かす方向について  
個人が個人に対して生かすもの、例えば職業訓練など  
個人が社会に対して生かすもの  
の4つくらいを座標軸において考えると判りやすいと思います。  
個人が個人のために学ぶという活動も、例えば親が一生懸命学んでいる姿を見て子どもが勉強しだして...といったことは実はまちづくりにつながっていくもので、生涯学習とまちづくりとを分けて考えてしまうと、うまくいくものもうまくいかなくなってしまうことがあります。とにかくやり始めることが大切だということだと思います。  
また、「評価」について、評価に対する評価を持たないと、ややもすると数字ばかりを追いがちで、質的な意味での評価をどうするかを今後この懇談会で考えていく必要があると思います。  
さらに先にも申しましたが、第2次計画(表紙)について、市民へのアピール度も考える必要があると思います。

伊達会長

皆さまからたくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。たくさんのご意見を出していただくことが、よい宇都宮をつくっていくことにつながると思います。次回からも是非よろしく願いたいします。  
本日は大変お疲れ様でした。

廣野係長

本日はありがとうございました。  
次回の日程は3月を予定しておりますので、その時期になりましたら、改めてご通知を差し上げたいと存じます。

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席委員名簿(平成 14 年 12 月 24 日)

	氏 名	該当号	備 考
1	塚原 毅繁	1	宇都宮市議会議員
2	柳田 孝	1	宇都宮市議会議員
3	藤野 修逸	1	宇都宮市議会議員
4	大貫 隆久	1	宇都宮市議会議員
5	藤井 弘一	1	宇都宮市議会議員
6	諏訪 利夫	1	宇都宮市議会議員
7	篠崎 光男	1	宇都宮市議会議員
8	市川 秀夫	2	栃木銀行取締役頭取
9	伊達 悦子	2	作新学院大学女子短期大学部教授
10	佐々木英和	2	宇都宮大学助教授
11	橋立 達夫	2	作新学院大学教授
12	宮田 直美	2	手づくり絵本の会「ポコアポコ」代表
13	和田 宏	3	N H K文化センター宇都宮支社長
14	木主 康明	3	宇都宮市中央生涯学習センター運営審議会副委員長
15	金子 耀誉	3	宇都宮地区幼稚園連合会長
16	伊藤フサ子	3	宇都宮市教育会長
17	大森 信男	4	連合栃木宇河地域協議会副議長
18	大房 信一	4	宇都宮市体育協会長
19	渡邊 泰秀	4	宇都宮市文化協会長
20	花田 静子	4	宇都宮商工会議所女性部副会長
21	添田 包子	4	宇都宮市女性団体連絡協議会長
22	人見 智子	4	宇都宮市青少年団体連絡協議会副委員長
23	松本カネ子	4	宇都宮ボランティア協会長
24	三村 正行	4	宇都宮市 P T A 連合会長
25	伊藤 信一	4	宇都宮モラロジ - 事務所代表
26	鈴木 宣次	5	公募委員
27	中村 真子	5	公募委員
28	重川たい子	5	公募委員

会長， 副会長